

平成21年度 事業報告書

学校法人 東北薬科大学

平成21年度事業報告書

平成21年4月 1日から

平成22年3月31日まで

I. 法人の概要

1. 建学の精神・理念・目的

【建学の精神】

本学は、昭和14年（1939年）東北・北海道地区唯一の薬学教育機関である東北薬学専門学校として創立され、ついで昭和24年（1949年）に東北薬科大学として開学した。

創立について特に誇りとするところは、国が廃止した薬学教育機関を、確固たる教育の理想のもと私学として民間の力で再興したことである。明治時代、政府は仙台に「仙台医学専門学校（東北大学医学部の前身）」を設立し医学科、薬学科を置いたが、大正6年（1917年）医学科だけを残り、薬学科を廃止した。以後約20年間、北日本には薬学教育機関が全く無くなり、この間、北日本の薬学の進歩、薬業界の発展は停滞するばかりであった。ことに薬学を志す者は、東京に出て学ばなければならず、経済的にも負担が大きく、その道に進むことが大変困難な時代が続いていた。そのような事態を憂い、また社会の熱い要請を受けて高柳義一先生をはじめとする民間の先覚者達の努力により、ついに昭和14年、東北薬学専門学校として創立された。

しかし、本学の歴史を顧みると、薬学専門学校の創立、そして大学の揺籃から発展へと至る道りは決して平坦ではなかった。創立当時、長期化していた戦争はしだいに厳しさを加え、ひきつづいて第2次世界大戦、そして敗戦という有史以来の激動の時代となり、学生をはじめ法人役員、教職員の苦難は想像を絶するものがあつた。戦後、廃校の岐路に立ったこともあつたが、昭和24年ついに幾多の困難を乗り越え東北薬科大学の昇格設置にこぎつけ、本学の基を確立した。

創立にあたり、創設者たちは地域社会に貢献できる薬剤師の養成を最大の目標としつつ、薬学の教育・研究を通じ、広く人類の健康と福祉に貢献することを願い、真理の探求に邁進するという高い志を掲げた。この精神は、大学創設者高柳義一先生の残された「われら真理の扉をひらかむ」という言葉に凝縮され、本学の建学の精神として碑に刻まれ（開真の碑）、今に伝えられている。

真理の探求は、まさに大学の使命である教育・研究の原点であり、この建学の精神は今後も我々に薬学教育・研究において真摯に取り組む姿勢と努力を求め続けるものといえる。

【教育理念】

本学は自然・人文社会科学分野における真理の探究を原点に、より高度な専門知識と技術を教授することを教育・研究の柱としてきている。特に薬学は、人間とその生命にかかわる学問であり、広い視野と豊かな人間性が求められる。

本学は「われら真理の扉をひらかむ」という建学の精神のもと、薬学の教育研究を通じて、広く人類の健康と福祉に貢献することを願い、次の3つを教育理念に掲げる。

- 一．自ら課題を求め真理の探究に努めるとともに、広い視野をもち自分の力で解決していく人材を育成する。
- 一．人間の生命と健康にかかわる者として、思いやりの心と高い倫理観をもち、高度で専門的な知識と技能を兼ね備え、地域および社会に貢献できる人材を育成する。
- 一．他者との交流を通じて、友情を育み、人格形成に努めるとともに、異文化を理解し国際的視野に立って活躍できる人材を育成する。

2. 沿革

1939年 3月	東北薬学専門学校の設置認可。
1949年 3月	東北薬科大学薬学部薬学科の設置認可。
1955年10月	運動場（28,047 平方メートル）完成。
1957年 8月	教員の資格審査権が教授会に附与された。
〃 4月	附属癌研究所を開設。
1962年 4月	大学院薬学研究科修士課程が、我が国の私立薬科大学最初のものとして設置認可。
1964年 4月	大学院薬学研究科博士課程が、我が国の私立薬科大学最初のものとして設置認可。
1965年 4月	薬学部に衛生薬学科の設置認可（2学科体制）。
〃 10月	体育館（1部2階建 2,496 平方メートル）完成。
1971年 4月	薬学部に製薬学科の設置認可（3学科体制）。
1996年 3月	講義棟（地下1階、地上8階建 7,128 平方メートル）完成。
2002年12月	大学院薬学研究科修士課程の入学定員の変更許可（10名から30名に）。
2005年 3月	文部科学省「私立大学学術研究高度化推進事業 ハイテク・リサーチ・センター整備事業」の選定を受ける。
2006年 2月	キャンパス整備事業第Ⅰ期工事、教育研究棟（地下1階、地上10階建 22,412 平方メートル）、ラジオアイソトープセンター（地下1階、地上3階建 996 平方メートル）、実験動物センター（地下1階、地上4階 1,972 平方メートル）完成。
〃 4月	新薬学教育制度の下、薬学部に薬学科（6年制）と生命薬科学科（4年制）の2学科を設置。
〃 4月	附属癌研究所を新たな研究テーマのもとに再構築し、分子生体膜研究所を開設。
〃 4月	文部科学省「私立大学学術研究高度化推進事業 学術フロンティア推進事業」の選定を受ける。
〃 4月	臨床薬剤学実務実習センターを設置。
2008年 4月	キャンパス整備事業第Ⅱ期工事、学生ホール(地上3階建 3,822.25 平方メートル)、図書館・情報センター(地下1階、地上2階建 4,859.69 平方メートル)完成。
〃 7月	イタリア・カラブリア大学薬学部と「学術研究協力に関する協定」締結。
〃 8月	スウェーデン・ウプサラ大学と「学術研究協力に関する協定」締結。
〃 10月	インドネシア・サムラランギ大学と「学術および教育協力に関する協定」締結。
2009年 3月	キャンパス整備事業第Ⅲ期工事、中央棟(地下1階、地上4階建 8,455.5 平方メートル)完成。
〃 7月	平成21年度文部科学省「大学教育・学生支援推進事業」[テーマB] (学生支援推進プログラム) に採択。
〃 8月	中国・南通大学と「学術交流および教育協力に関する国際交流協定」締結。
2010年 1月	イタリア・マグナグレシア大学薬学部と「学術研究協力に関する協定」締結。
〃 3月	キャンパス整備事業第Ⅳ期工事（環境整備等）完了。

3. 設置する学校、学部、学科等

設置する大学		東 北 薬 科 大 学
学 部 ・ 学 科 等	大学院	薬学研究科博士課程・後期課程 薬学研究科博士課程・前期課程
	薬学部	薬 学 科 (6年制) 生 命 薬 科 学 科 (4年制) 薬 学 科 (旧課程4年制) 衛 生 薬 学 科 (旧課程4年制) 製 薬 学 科 (旧課程4年制)

4. 入学定員、学生数の状況 (平成21年5月1日現在)

		年 次	入学定員	現員数
学 部	薬学科 (6年制)	1年次	330	354
		2年次	330	346
		3年次	330	335
		4年次	330	273
		計	1,320	1,308
	生命薬科学科 (4年制)	1年次	50	39
		2年次	50	41
		3年次	50	33
		4年次	50	12
		計	200	125
	旧課程(※) (4年制)	3年次	—	2
		4年次	—	76
		計	—	78
計			1,520	1,511
大学院	博士課程 ・前期課程	1年次	30	35
		2年次	30	30
		計	60	65
	博士課程 ・後期課程	1年次	5	1
		2年次	5	6
		3年次	5	8
		計	15	15
計			75	80
合 計			1,595	1,591

(※) : 薬学部 (旧課程) は、平成18年度より募集停止

5. 入学試験の状況（過去3年分：平成20年度～平成22年度）

【薬学科】

内訳 入試区分		人数 ※()内は女子の内数				
		募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
平成 22 年 度	推薦(指定校)	50	49 (33)	49 (33)	49 (33)	49 (33)
	推薦(公募)	75	137 (94)	137 (94)	85 (57)	85 (57)
	一般(前期)	120	464 (240)	453 (237)	214 (112)	131 (67)
	一般(後期)	35	247 (123)	156 (73)	58 (29)	41 (19)
	センター(前期)	15	331 (174)	327 (172)	104 (46)	7 (4)
	センター(後期)	5	15 (7)	15 (7)	6 (3)	1 (0)
	計	300	1,243 (671)	1,137 (616)	516 (280)	314 (180)
平成 21 年 度	推薦(指定校)	55	48 (34)	48 (34)	48 (34)	48 (34)
	推薦(公募)	80	134 (91)	134 (91)	90 (62)	90 (62)
	一般(前期)	130	506 (242)	494 (236)	249 (124)	160 (72)
	一般(後期)	40	270 (137)	147 (78)	70 (39)	45 (25)
	センター(前期)	20	299 (150)	295 (149)	96 (55)	3 (3)
	センター(後期)	5	21 (11)	21 (11)	6 (3)	2 (0)
	計	330	1,278 (665)	1,139 (599)	559 (317)	348 (196)
平成 20 年 度	推薦(指定校)	55	51 (32)	51 (32)	51 (32)	51 (32)
	推薦(公募)	80	155 (91)	155 (91)	91 (55)	91 (55)
	一般(前期)	130	580 (269)	560 (261)	243 (114)	141 (59)
	一般(後期)	40	290 (133)	186 (85)	64 (31)	38 (17)
	センター(前期)	20	389 (201)	384 (199)	106 (57)	13 (8)
	センター(後期)	5	30 (19)	30 (19)	8 (4)	5 (1)
	計	330	1,495 (745)	1,366 (687)	563 (293)	339 (172)

【生命薬科学科】

内訳 入試区分		人数 ※()内は女子の内数				
		募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
平成 22 年 度	推薦(指定校)	10	2 (2)	2 (2)	2 (2)	2 (2)
	推薦(公募)	5	2 (1)	2 (1)	2 (1)	2 (1)
	一般(前期)	15	42 (22)	41 (21)	33 (17)	17 (5)
	一般(後期)	7	30 (8)	17 (6)	13 (5)	11 (4)
	センター(前期)	3	28 (17)	28 (17)	18 (11)	1 (0)
	センター(後期)	若干名	2 (2)	2 (2)	1 (1)	0 (0)
	計	40	106 (52)	92 (49)	69 (37)	33 (12)
平成 21 年 度	推薦(指定校)	15	6 (4)	6 (4)	6 (4)	6 (4)
	推薦(公募)	5	4 (3)	4 (3)	4 (3)	4 (3)
	一般(前期)	15	48 (24)	47 (23)	37 (19)	17 (7)
	一般(後期)	7	30 (12)	15 (6)	11 (6)	9 (6)
	センター(前期)	5	59 (30)	59 (30)	26 (16)	1 (1)
	センター(後期)	3	5 (4)	5 (4)	2 (2)	0 (0)
	計	50	152 (77)	136 (70)	86 (50)	37 (21)
平成 20 年 度	推薦(指定校)	15	5 (2)	5 (2)	5 (2)	5 (2)
	推薦(公募)	5	7 (5)	7 (5)	6 (4)	6 (4)
	一般(前期)	15	50 (19)	48 (19)	33 (17)	15 (8)
	一般(後期)	7	31 (18)	15 (7)	12 (7)	10 (6)
	センター(前期)	5	47 (24)	47 (24)	20 (11)	3 (2)
	センター(後期)	3	14 (4)	14 (4)	6 (1)	3 (0)
	計	50	154 (72)	136 (61)	82 (42)	42 (22)

6. 薬剤師国家試験の状況（過去5年分：平成17年度～平成21年度）

回数		出願者数	受験者数	合格者数（合格率）
第94回 H21.4.3 厚生労働省発表	新卒	360	360	323 (89.72%)
	その他	169	152	75 (49.34%)
	計	529	512	398 (77.73%)
第93回 H20.4.3 厚生労働省発表	新卒	375	375	314 (83.73%)
	その他	170	149	83 (55.70%)
	計	545	524	397 (75.76%)
第92回 H19.4.5 厚生労働省発表	新卒	377	374	322 (86.10%)
	その他	166	142	68 (47.89%)
	計	543	516	390 (75.58%)
第91回 H18.4.6 厚生労働省発表	新卒	367	367	324 (88.28%)
	その他	151	144	59 (40.97%)
	計	518	511	383 (74.95%)
第90回 H17.4.6 厚生労働省発表	新卒	364	364	340 (93.41%)
	その他	205	177	105 (55.85%)
	計	569	551	445 (80.62%)

7. 役員・教職員の概要（平成21年5月1日現在）

(1) 理事（定数6～8名、現員7名、任期4年）

○理事長 高柳元明 ○理事 沼澤光輝
 ○理事 水柿道直 ○理事 鈴木征
 ○理事 高柳和枝 ○理事 櫻田忍
 ○理事 千葉規

(2) 監事（定数2名、現員2名、任期4年）

○監事 佐藤寿郎 ○監事 立花鐵夫

(3) 評議員（定数13～17名、現員15名、任期4年）

○評議員 高柳元明 ○評議員 沼澤光輝
 ○評議員 水柿道直 ○評議員 鈴木征
 ○評議員 高柳和枝 ○評議員 櫻田忍
 ○評議員 千葉規 ○評議員 箱守仙一郎
 ○評議員 佐久間博明 ○評議員 増澤淳郎
 ○評議員 菊地正雄 ○評議員 仙石裕祥
 ○評議員 松本達二 ○評議員 黒田英雄
 ○評議員 安積茉莉子

(4) 教員

①常勤

学長	教授	准教授	講師	助教	助手	合計
1	32	19	19	21	20	112

②非常勤

非常勤講師
21

(5) 職員

事務職	医療職	用務職	合計
40	1	4	45

II. 事業の概要

1. 平成21年度の主な事業

- (1) 学部教育の充実
- (2) 病院・薬局長期実務実習の実施準備および薬学共用試験（CBT・OSCE）の実施
- (3) 大学院新修士課程の設置届出
- (4) 創立70周年記念事業
- (5) 薬学教育評価機構「自己評価21」の実施
- (6) 教員評価の実施
- (7) FD・SD活動の推進
- (8) 入試・広報活動の強化
- (9) 就職活動支援の充実
- (10) 学生支援体制の充実
- (11) 研究活動の充実
- (12) 社会貢献活動

2. 事業の実施状況

(1) 学部教育の充実

薬学生として学習に対するモチベーションを高めることを目的に、1年次前期に薬学早期体験学習が配され、薬害被害者による講演、施設見学（病院、薬局、製薬工場・検査施設、介護・障害者施設）、そしてハンディキャップ体験（高齢者擬似体験、車椅子乗車・介助体験、視覚障害者擬似体験）が実施されている。薬学早期体験学習では、得られた体験に基づいてスモールグループディスカッション（SGD）を行い、見学報告会で発表することで学生がより積極的に、そして能動的に、薬剤師としての使命感や職業観、他の医療提供者との関係、患者や障害を持った人の心理を理解し、医療人としての倫理観を習得できるようになっている。また、薬害についても、薬害被害者、弁護士の両者の講義を実施し、薬剤師をめざして入学した学生に肌で感じる機会を早期に提供する等、常に学部教育の充実に努めている。

(2) 病院・薬局長期実務実習の実施準備および薬学共用試験（CBT・OSCE）の実施

平成22年度から開始される長期実務実習にあわせて、薬剤師会、病院薬剤師会と本学教員を構成員として平成20年10月に立ち上げた「病院・薬局実習委員会」において、実務実習に関わる指導方法や内容等について協議並びに研修を実施してきている。本学では、長期実務実習推

進委員会が、実務実習に関する企画・調整を行い、実習先（病院・薬局）の施設確保、実習施設への学生割り振り、実務実習期間中の病院・薬局への訪問指導体制も構築し実施体制を整えた。同委員会は、平成22年度に実務実習運営委員会と発展的に名称を変更し、実習学生への訪問指導、実務実習の成績評価等も担当することとなる。

また、実習第1期生となる4年次学生を対象とした薬学共用試験（CBT、OSCE）が平成21年12月及び平成22年1月に実施され、272名受験し全員が合格した。平成22年度には、この薬学共用試験に合格した6年制薬学教育における1期生に対し、長期実務実習がスタートする。

（3）大学院新修士課程の設置届出

創薬や生命科学の研究開発等に携わる人材の育成のため、生命薬科学科を基礎とした新たな大学院を設置することとし、5月に文部科学省へ「薬科学専攻修士課程」の設置届出を行い、平成22年度からの設置が承認された。

なお、今後、同専攻に3年制の博士課程と、薬学部薬学科（6年制課程）を基礎とする4年制の博士課程を設置予定であり、平成22年度中に準備を整え、平成24年度設置に向けた手続を進めることとしている。

（4）創立70周年記念事業

①新キャンパス整備計画終了

70周年記念事業の一環として、平成16年6月に着工された新キャンパス整備計画は、第I期工事（教育研究棟、ラジオアイソトープセンター、実験動物センター、平成18年2月竣工）、第II期工事（図書館・情報センター、学生ホール、平成20年4月竣工）、第III期工事（中央棟、平成21年3月竣工）を経て、平成22年3月に第IV期工事（緑化、解体工事、外構工事）が竣工し、キャンパスが一新された。最先端の設備と機器を備えた新キャンパスは、薬学教育・研究の拠点として大きな役割を果たしていくものと期待されている。

②記念式典挙行

新キャンパスの完成披露を兼ねた70周年記念式典が11月14日日本学70周年記念講堂において挙行され、同窓生をはじめ、教育・医療・薬学界の関係者等約900名が出席し、盛会裏に終了した。

(5) 薬学教育評価機構「自己評価21」の実施

6年制薬学教育が5年目をむかえ、平成22年度から開始される病院及び薬局における長期実務実習が始まるのに際し、大学における質の高い6年制の薬学教育がおこなわれていることを客観的に確認し、社会に対する説明責任を果たす必要があることから、平成21年度に薬学教育評価機構「自己評価21」実施要項に基づき自己点検評価を実施した。まとめた評価結果は、本学HPに掲載するとともに、製本冊子を薬学教育評価機構へ提出並びに教職員に配付した。

(6) 教員評価の実施

本学では、教員の任期制を平成15年12月以降の任用者から導入しており、平成18年度からは、それ以前の在職者も含めた全員が5年を任期とする任期制（再任可）が適用された。任期更新にあたっては、研究活動、教育活動、その他大学及び社会への貢献について、教員評価委員会を設置し、評価を行っている。

また、平成18年度から全教員に対して「教育等業績報告書」の報告提出を義務化し、現在は、「1教育」「2研究」「3組織運営」及び「4社会貢献」活動を総合的に評価している。評価にあたっては、ポイント化による客観的評価方式と、報告者自身の記述による主観的な自己評価方式を併用しており、今年度も全教員110名を対象に実施した。

(7) FD・SD活動の推進

①推進体制

従来よりFD活動は実施されていたが、6月に、FD活動の更なる充実と促進を目的に全学的な組織としてFD推進委員会を設置し、FD活動の企画・立案等や具体的な推進体制を整えた。本委員会は22年4月よりSD活動も併せて推進するFD・SD推進委員会として活動を行うこととなっている。

②具体的な推進活動

- ・授業改善を目的とした学生への授業アンケートの実施（7月、2月）。本アンケート調査に基づいた授業改善報告書の提出を本年度より義務化。
- ・授業技術のスキルアップを目的とした、年2回（前期・後期）公開授業の実施。
- ・仙台圏の大学が連携した「戦略的大学連携支援事業」におけるFD・SD活動への参加。
- ・薬学教育者ワークショップの開催。
- ・新しい教育方法であるPBLチュートリアル教育を円滑に実践するための学内PBL研修会（チューター養成）の実施（11月）。

- ・新任・若手職員等を対象に、本学の歴史や基本的な組織・業務内容の理解を深めることを目的とした職員研修会を実施（5月）。

（8）入試・広報活動の強化

①入学定員の変更

近年の少子化とともに薬剤師養成課程の6年制への移行や、厳しい景気情勢等から、受験生の薬学離れが進展していることを踏まえ、学生の質の維持・向上を図る観点から薬学科の入学定員を330名から300名へ、生命薬科学科の入学定員を50名から40名へ削減することを決定。

6月末に文部科学省へ届出を行い、平成22年度より実施することとなった。

②入試説明会・高校訪問の実施

例年、東北6県の高等学校及び予備校の進学指導者を対象に「進学指導担当者のための入試説明会」を開催し、大学の紹介、薬学教育の現況、教育方針と特色、入試の概要説明、個別相談等を行っている。今年度は6会場で合計72校74名の進学指導担当者が出席した。また、6月下旬から12月にかけて、推薦入学試験指定校となっている高等学校や、合格実績のある高等学校を中心に延べ256校の高校訪問を実施した。

③オープンキャンパスの実施

今年度は7月31日～8月1日の2日間実施した。オープンキャンパスは今回で10回目を迎え、2日間合計で1,110名が本学を訪れた。また、今年度は初めての試みとして、ミニオープンキャンパスを9月5日に開催し、新キャンパスの見学、入試相談、予備校講師による入試問題解説講座を実施し、総勢102名が訪れた。

（9）就職活動支援の充実

①本学の就職活動支援体制

本学では就職部就職課が学生個々の様々な要望に対して個別の面談を通して具体的なアドバイスを行っている。求人先に関する種々の情報提供、面接指導、履歴書・エントリーシートなどの添削指導、また、病院、薬局等の見学希望者については、見学先への連絡、日程調整等も随時行っている。

また、就職に関する様々な問題の検討と就職指導を的確かつ迅速に進めるため、就職部長を委員長とする就職部委員会を置き、配属教室の指導教員や組担任とも連携をとりながら学生へ指導・助言が随時行える体制をとっている。

特に薬剤師の免許取得を前提としない生命薬科学科の学生に対しては、3年次後半の就職活動

が開始される前に全員と面談を行い、進路に関する相談と確認を行っている。

こういった諸施策の成果により、本学は例年高い就職率を維持しており、今年度初の卒業生を出した生命薬科学科の就職率は100%となっている。

②「大学教育・学生支援推進事業」の採択

平成21年度の文部科学省「大学教育・学生支援推進事業」【テーマB】学生支援推進プログラムに本学が申請した「薬学部4年制学科の学士力向上を目指したキャリア形成教育」の取組が採択された。

本取組は、生命薬科学科の学生を対象とした、新しいキャリア形成教育に基づく学士力の確保と学生の個性を生かした3年間の就職支援プログラムであり、職業観の醸成とキャリア形成のために、社会科学系科目の履修、学内研究室訪問、企業見学体験学習およびキャリア支援講座を実施する。さらに、インターンシップと卒業研究により、社会人として必要な「自己表現能力」「問題解決能力」「対人関係能力」を修得させることをねらいとしている。

(10) 学生支援体制の充実

本学では、1、2年次は各クラス3名、3、4年次は2名の組担任制度をとっており、各組担任が保健管理センター、クラブ顧問、学生課、教務課、就職課等と密接な連携をとり、学業・生活面を中心に学生への助言や指導を行っている。今年度からは授業担当教員によるオフィスアワーを設け、学生指導体制の充実を図っている。

学生の健康管理面では、保健管理センターが各種健康診断の実施と事後指導を行っている。特にメンタルヘルスに関しては、家族、組・学年担任、教務課、学生課とともに保健管理センターが協力して対応できるシステムを構築しており、また、その機能を高めるために、教職員向けのメンタルヘルス講習会を6月、12月に開催した。

(11) 研究活動の充実

①各種研究活動

文部科学省の「私立大学学術研究高度化推進事業」の一つである、ハイテク・リサーチ・センター整備事業に採択された本学のプロジェクト「プロジェクト名：分子標的制御によるがん・加齢性疾患および難治性疼痛制御の研究」は、今年度最終年度を迎えた。5月29日には第4回東北薬科大学ハイテク・リサーチ・シンポジウムを開催し、参加9教室がこれまでの研究成果を口頭発表9演題、ポスター発表9演題で報告を行った。

なお、本事業の後継事業として「癌および加齢性疾患の制御とQOL向上を目指す創薬」の構

想調書を2月に文部科学省宛提出し、平成22年4月に採択の通知を受けている。

この他、本学分子生体膜研究所の共同研究プロジェクト「生体膜の糖鎖機能と疾患に関する薬学的研究」は、平成18年度より文部科学省の学術フロンティア推進事業に選定されている。既に様々な研究成果を発表しており、今後の展開と医療への貢献が大いに期待されている。

②外部資金

今年度の外部資金の状況は以下のとおりとなっている。

一．科学研究費補助費

（文部科学省27件：直接経費36,900,000円、間接経費11,070,000円

厚生労働省1件：4,000,000円）

二．受託研究費（8件：直接経費28,051,000円、間接経費5,289,000円）

三．指定（奨学）寄付金（8件：5,600,000円）

四．共同研究（4件：10,510,000円）

(12) 社会貢献活動

本学が企画、運営する大学卒業後の研修プログラムとして、生涯教育講演会を例年2回開催しており、今年度は5月30日と10月31日に開催した。この講演会では、学術的な内容と医療現場の問題を中心とした臨床的な内容を取り上げており、特に臨床的な講演は「医師の処方を理解し、適切な服薬指導をするために」と題してシリーズ化されている。本講演会はWebを利用して同時配信しており、録画映像を本学ホームページに掲載している。

そのほか、医薬連携セミナー、薬剤師研修、市民公開講座、附属薬用植物園見学会、高大連携授業、出張講義の実施などが実施されている。

Ⅲ. 財務の概要

1. 資金収支計算書

(A) (B) (B) - (A) (単位:千円)

収入の部						
科 目	平成19年度	平成20年度	平成21年度	増減額	増減率	
学生生徒等納付金収入	2,862,451	2,858,993	2,861,573	2,580	0.1%	
手数料収入	75,287	67,440	63,370	▲ 4,070	-6.0%	
寄付金収入	31,555	27,764	41,530	13,766	49.6%	
補助金収入	414,781	423,501	382,740	▲ 40,760	-9.6%	
国庫補助金収入	411,649	423,363	382,601	▲ 40,762	-9.6%	
地方公共団体補助金収入	132	138	139	2	1.5%	
学術研究振興資金収入	3,000	0	0	0		
資産運用収入	149,257	195,796	164,650	▲ 31,146	-15.9%	
資産売却収入	500,000	7,500,000	9,192,917	1,692,917	22.6%	
事業収入	70,311	51,401	33,340	▲ 18,061	-35.1%	
雑収入	107,696	75,714	121,935	46,221	61.1%	
前受金収入	375,375	377,850	338,800	▲ 39,050	-10.3%	
その他の収入	122,200	2,164,529	126,246	▲ 2,038,283	-94.2%	
資金収入調整勘定	▲ 397,158	▲ 469,457	▲ 484,237	▲ 14,780	3.2%	
前年度繰越支払資金	17,055,054	10,239,046	10,721,620	482,573	4.7%	
収入の部合計	21,366,810	23,512,579	23,564,485	51,906	0.2%	
支出の部						
科 目	平成19年度	平成20年度	平成21年度	増減額	増減率	
人件費支出	1,838,738	1,764,176	1,812,568	48,391	2.7%	
教育研究経費支出	886,392	946,255	947,921	1,666	0.2%	
管理経費支出	262,534	296,004	520,886	224,882	76.0%	
施設関係支出	2,703,670	2,860,856	627,716	▲ 2,233,141	-78.1%	
設備関係支出	103,001	213,269	215,125	1,855	0.9%	
資産運用支出	4,988,616	7,395,571	8,999,882	1,604,312	21.7%	
その他の支出	456,094	293,692	1,016,340	722,648	246.1%	
〔予備費〕						
資金支出調整勘定	▲ 111,282	▲ 978,863	▲ 281,696	697,168	-71.2%	
次年度繰越支払資金	10,239,046	10,721,620	9,705,745	▲ 1,015,875	-9.5%	
支出の部合計	21,366,810	23,512,579	23,564,485	51,906	0.2%	

2. 消費収支計算書

(A) (B) (B) - (A) (単位:千円)

消費収入の部						
科 目	平成19年度	平成20年度	平成21年度	増減額	増減率	
学生生徒等納付金	2,862,451	2,858,993	2,861,573	2,580	0.1%	
手数料	75,287	67,440	63,370	▲ 4,070	-6.0%	
寄付金	34,575	32,132	51,509	19,377	60.3%	
補助金	414,781	423,501	382,740	▲ 40,760	-9.6%	
国庫補助金	411,649	423,363	382,601	▲ 40,762	-9.6%	
地方公共団体補助金	132	138	139	2	1.5%	
学術研究振興資金	3,000	0	0	0		
資産運用収入	149,257	195,796	164,650	▲ 31,146	-15.9%	
資産売却差額	1,852	1,687	8,218	6,532	387.3%	
事業収入	70,311	51,401	33,340	▲ 18,061	-35.1%	
雑収入	110,543	75,714	121,935	46,221	61.1%	
帰属収入合計	3,719,057	3,706,664	3,687,336	▲ 19,328	-0.5%	
基本金組入額合計	▲ 3,122,732	▲ 300,000	▲ 2,718,569	▲ 2,418,569	806.2%	
消費収入の部合計	596,325	3,406,664	968,767	▲ 2,437,898	-71.6%	
消費支出の部						
科 目	平成19年度	平成20年度	平成21年度	増減額	増減率	
人件費	1,723,872	1,861,407	1,792,736	▲ 68,671	-3.7%	
教育研究経費	1,551,029	1,679,263	1,721,800	42,537	2.5%	
(うち減価償却額)	(664,637)	(713,857)	(770,341)	(56,484)	7.9%	
管理経費	311,317	399,886	664,547	264,661	66.2%	
(うち減価償却額)	(48,783)	(85,248)	(131,334)	(46,087)	54.1%	
資産処分差額	14,992	109,962	287,166	177,203	161.2%	
徴収免除額	0	2,160	0	▲ 2,160	-100.0%	
〔予備費〕						
消費支出の部合計	3,601,210	4,052,678	4,466,248	413,570	10.2%	
当年度消費収入(▲支出)超過額	▲ 3,004,886	▲ 646,014	▲ 3,497,482	▲ 2,851,468	441.4%	
前年度繰越消費収入(▲支出)超過額	17,500,585	14,495,699	16,886,657	2,390,958	16.5%	
基本金取崩額	0	3,036,971	275,632	▲ 2,761,339	-90.9%	
翌年度繰越消費収入(▲支出)超過額	14,495,699	16,886,657	13,664,808	▲ 3,221,849	-19.1%	
帰属収支差額	117,847	▲ 346,014	▲ 778,912	▲ 432,898	125.1%	

※帰属収支差額＝帰属収入合計－消費支出の部合計

3. 貸借対照表

(A) (B) (B) - (A) (単位:千円)

資産の部						
科 目	平成19年度	平成20年度	平成21年度	増減額	増減率	
固定資産	30,153,345	31,496,992	31,465,022	▲ 31,970	-0.1%	
有形固定資産	20,606,650	22,738,705	22,387,233	▲ 351,472	-1.6%	
その他の固定資産	9,546,695	8,758,287	9,077,789	319,502	3.7%	
流動資産	16,329,709	15,603,083	13,965,617	▲ 1,637,466	-10.5%	
資産の部合計	46,483,054	47,100,075	45,430,639	▲ 1,669,436	-3.5%	
負債の部						
科 目	平成19年度	平成20年度	平成21年度	増減額	増減率	
固定負債	1,010,705	1,107,935	1,088,104	▲ 19,832	-1.8%	
流動負債	518,009	1,383,814	513,121	▲ 870,692	-62.9%	
負債の部合計	1,528,714	2,491,749	1,601,225	▲ 890,524	-35.7%	
基本金の部						
科 目	平成19年度	平成20年度	平成21年度	増減額	増減率	
第1号基本金	28,338,640	27,401,669	27,044,606	▲ 357,063	-1.3%	
第2号基本金	1,800,000	0	2,800,000	2,800,000		
第4号基本金	320,000	320,000	320,000	0	0.0%	
基本金の部合計	30,458,640	27,721,669	30,164,606	2,442,937	8.8%	
消費収支差額の部						
科 目	平成19年度	平成20年度	平成21年度	増減額	増減率	
翌年度繰越消費収入超過額	14,495,699	16,886,657	13,664,808	▲ 3,221,849	-19.1%	
消費収支差額の部合計	14,495,699	16,886,657	13,664,808	▲ 3,221,849	-19.1%	
科 目	平成19年度	平成20年度	平成21年度	増減額	増減率	
負債の部、基本金の部 及び消費収支差額の部合計	46,483,054	47,100,075	45,430,639	▲ 1,669,436	-3.5%	
正味資産	44,954,339	44,608,326	43,829,414	▲ 778,912	-1.8%	
※正味資産＝資産－負債（＝基本金＋消費収支差額）						
減価償却額の累計額の合計額	4,287,405	4,582,225	4,661,487	79,262	1.7%	

〔 総 括 〕

平成21年度決算の概要および特徴としては、消費収支において、帰属収入合計から消費支出合計を差し引いた帰属収支差額がマイナス7億7千9百万円で支出超過となりましたが、これは平成17年度より今年度末まで進めました新キャンパス整備事業の第4期工事（最終）に係る支払によるものです。

資金収支においては、今後の教育研究環境の維持向上に必要な資金を担保するため、施設整備引当特定資産（3億円）並びに実習施設施設整備引当特定資産（25億円）へ繰入れ（計28億円）を実施しました（第2号基本金）。

また、資産から負債を差し引いた正味財産については438億円となり、前年度と比較して7億7千9百万円の減となっております。

4. 財産目録

(A) (B) (B)-(A) (単位:千円)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	増減額	増減率
I 資産総額	46,483,054	47,100,075	45,430,639	▲ 1,669,436	-3.5%
内基本財産	20,613,399	22,745,039	22,393,153	▲ 351,886	-1.6%
運用財産	25,869,655	24,355,035	23,037,486	▲ 1,317,550	-5.4%
II 負債総額	1,528,714	2,491,749	1,601,225	▲ 890,524	-35.7%
III 正味財産	44,954,339	44,608,326	43,829,414	▲ 778,912	-1.8%
区 分	平成19年度	平成20年度	平成21年度	増減額	増減率
一 資産額					
(一) 基本財産	20,613,399	22,745,039	22,393,153	▲ 351,886	-1.6%
1 土地	3,619,354	3,619,354	3,619,354	0	0.0%
2 建物	10,943,663	15,224,895	14,726,398	▲ 498,497	-3.3%
3 構築物	331,855	539,923	711,557	171,635	31.8%
4 機器備品	1,176,124	1,223,328	1,239,444	16,116	1.3%
5 図書	1,306,263	1,329,182	1,353,661	24,479	1.8%
6 建設仮勘定	3,229,391	802,023	736,818	▲ 65,205	-8.1%
7 その他	6,749	6,334	5,920	▲ 415	-6.5%
(二) 運用財産	25,869,655	24,355,035	23,037,486	▲ 1,317,550	-5.4%
1 現金・預金	13,380,046	12,062,620	11,346,745	▲ 715,875	-5.9%
2 有価証券	11,982,733	11,579,990	11,095,174	▲ 484,816	-4.2%
3 その他	506,875	712,425	595,567	▲ 116,858	-16.4%
合 計	46,483,054	47,100,075	45,430,639	▲ 1,669,436	-3.5%
二 負債額					
1 固定負債	1,010,705	1,107,935	1,088,104	▲ 19,832	-1.8%
退職給与引当金	1,010,705	1,107,935	1,088,104	▲ 19,832	-1.8%
2 流動負債	518,009	1,383,814	513,121	▲ 870,692	-62.9%
未払金	81,480	948,103	114,298	▲ 833,805	-87.9%
前受金	375,375	377,850	338,800	▲ 39,050	-10.3%
預り金	61,154	57,861	60,023	2,163	3.7%
合 計	1,528,714	2,491,749	1,601,225	▲ 890,524	-35.7%
三 正味財産 (資産総額-負債総額)	44,954,339	44,608,326	43,829,414	▲ 778,912	-1.8%